

平成19年度
第1回 徳山地区地域審議会
会議録

日 時：平成19年9月7日（金）

場 所：周南市役所 3階 第6会議室

【会 議 次 第】

- 1 開会
- 2 市民憲章唱和
- 3 市長あいさつ
- 4 議事
 - (1) 徳山地区地域審議会からの提言(案)について
 - (2) その他
- 5 総合政策部長あいさつ
- 6 閉会

平成19年度 第1回徳山地区地域審議会 会議録

日時 平成19年9月7日(金) 午前9時30分～午前10時40分
場所 周南市役所 3階 第6会議室
出席者 ・委員 14名
小田 敏雄(会長)、中村 俊孝(副会長)、清永 一彦、橋本 勲美、
大森 クニ子、廣澤 和己、山本 裕之、山田 好美、木船 淳雄、
福原 和子、河野 裕美、大寺 和美、清木 寛、萩原 幸夫
・島津周南市長
・事務局 4名
山下総合政策部長、中村企画課長、原田課長補佐、中村(充)
資料 審議状況等(資料1)、徳山地区地域審議会からの提言(案)

会議議事録

1 開会

2 市民憲章唱和

3 市長あいさつ(要約)

- 今回で退任される方々は、これまで周南市のためにご尽力いただき本当にありがとうございました。また、再任される方々は、色々なご意見があると思いますので、引き続き自由な議論をしていただきますようよろしくお願いします。
- 他地区では、合併して自分達の歴史や文化が消えてしまうのではないかという漠然とした不安があります。そういう中で、地域バランスを考慮したまちづくりをしていく必要性を感じています。
- とにかく気にせずどんどん意見を述べてください。「できない」ということはあまりないと考えています。いつまでにやるか=Priority(優先順位)をどうするかということを提言していただき、一緒に考えていきたいと思えます。

4 議事(要約)

(1) 徳山地区地域審議会からの提言(案)について

事務局 《資料1をもとに、これまでの審議経過について説明》

会長 各部長さんから補足説明がありましたらお願いします。

安心・安全部長 提言(案)1の最終段落「これまで、市では、～」の部分ですが、これは、行政で重複する事業の一本化を図っていただきたいということです。安心安全というのは、お金の問題ではなくて心の問題であり、人がどう意識してこの街で過ごし子育てをしていくかという、一人ひとりのモノの考えや生き方を問う

ところが大きいと思います。お金に頼る、何かに頼るのではなくて、どのように力を発揮してもらえるのかという部分をサポートできるような行政というものが、様々な部署で行われているけれども、ほとんどが連携できていないということです。素晴らしい知恵が出ているはずなのに他の部署には伝わっていない。教育委員会は教育委員会、市は市、児童相談所は児童相談所と、それぞれ縦割りで行動しているという状況です。その辺の連携を密にさせていただきたいということです。

地域格差部会長　　まず1番目の「出先機関等のあり方について」は、総合支所をどのように利用するのかという基本的な方針が明確ではなく、本当に今の人員が必要なのかというご意見が出ていました。出来るだけ早くこの3つの総合支所の活用と合理化を急いでいただきたいと思います。

それから、2番目の「北部地区における常備消防の整備について」ですが、これは、地域審議会の審議事項「その他必要と認める事項」、特に安心安全に関する問題であり、まさに審議会で審議して提言すべきものとして真剣に考えていただきたい。お金が無い云々というよりは、むしろ消防の合理化ということです。早急に市民が安心を得られるようにご努力をお願いしたいと思います。

最後の「合併時の未調整項目と新市建設計画の推進について」ですが、1番大事なことは、第1期地域審議会で前市長に対して我々はまちづくり総合計画について答申をしていますが、これについて、現在どのような状況になっているのかという報告を受けたことがないということです。あれだけ分厚いものを長時間かけて審議し、「こういう方向でまちづくりをしてください」ということで答申しています関係上、定期的に進捗状況を確認して議会に報告するまたは市民に提示するといった、チェックとフォローをお願いしたいと思います。

それから、最後から3行目に「説明責任を明確にするとともに」と書いてありますが、ここに重要な意味が込められています。リーディングプロジェクト21をはじめ、合併前にたくさんの事業計画が示されました。しかし、お金がないということで、単市の時は予算がついていたのに合併後にバツサリ切られるというようなことが出てきています。そのようなことでは、我々は何のために合併を推進してきたのか、言葉は悪いが市民が騙されているのではないかという気持ちさえします。お金が無いことはわかりますけれども、それならば説明責任を明確にして、市民の意見を代表する議会に報告するなどの対応をしていただきますようよろしくお願いします。合併して議会が新しくなりましたが、「議員が新しくなれば前のことは知らない」というようなことは、絶対許されないとします。行政は継続しているわけですから、我々が答申したまちづくり総合計画（の基本構想）もさることながら、合併前に約束されたことについては、きちりと説明責任を果たしていただきたい。

会長　　徳山地区地域審議会からの提言（案）について、それぞれの委員の皆様からご意見・ご質問等をいただいて立派な提言にしたいと思いますのでよろしくお願いします。

委員　　今は、また柔剣道を復活するとかゆとり教育を見直すとか、国の政策に一貫性がない。All or Nothingでは困るけれども、それにしても、国政があれだけフ

ラフラしては、地域がしっかりしていかないと、頼れるような子どもができないような気がします。

委員 私は、子育て支援の現場で子どもと接しておりますけれども、子育て支援ということが盛んに言われる中で、これは果たして子育て支援なのかなという場面によく遭遇します。子育て支援ではなくて親を甘やかしているのではないかということです。本来子どもは親が育てるものです。でも今行われている子育て支援の中の多くは、その「子どもは親が育てる」という原点がぶれている気がしてなりません。子育て支援はこれからの社会で絶対欠くことのできない大事なことだとは思いますが、それを実施する段階においてその原点がぶれない支援をお願いしたいです。

例えば、講演会があると、小さいお子さん連れの方のために託児を頼まれます。余裕を持って開演30分前の13時から託児を受けることになっているのに、その1時間や30分前に子どもを連れてくる親がいます。「何でこんなに早く連れてきたの？」と訊ねると、「私達、ランチに行きたいから、この子を預かってください。」と若いママが言われます。私も、子育ての最中は、子どもと離れたところで美味しいランチを食べたいと願った経験がありますので、気持ちは分かりますが、おんぶに抱っこ、それ以上のことを今のお母さん達は当たり前のようにしていることが度々あるのです。

今は、物理的に私達の子育ての時と比べて子育て支援が必要だとすごく実感します。フルタイムで働いているお母さんもたくさんいます。でも、やっぱり子育ての原点は親なのだという、原点がぶれない支援を本当にお願いしたいと思います。

会長 色々な意見が出ておりますが、提言(案)につきましては、こういう内容でまとめてよろしいですか。将来に向けてのことや言い足りないこと、次の審議会で取り上げて欲しいことなどがありましたら、「その他」において各委員さんに発言の時間を設けておりますので、そこでご意見を述べていただきたいと思います。もし、事務的にこの提言内容につきましては、修正箇所がありましたら言っていただいて、事務局と会長・副会長にお任せ願いたいと思います。それでは、そういうことで決定したいと思います。よろしいですか。

全委員 《拍手》

(2) その他

会長 次に引き続き委員となられる方には是非その意見を生かしていただくという意味で、これまでの審議内容や審議会に対する提言、審議会そのものについてのご意見など、一人ひとりご意見を出していただきたいと思います。

委員 今日は皆さん参加でございますが、部会に分かれても2人ということがありました。お忙しいとは思いますが、なるべく時間を割いて、極力参加していく方が良いと思います。

委員 安心安全と地域格差に分かれた方が話はまとまりやすかったのも、これからは部会に分かれた方が良いと思います。

委員 1回目は全員でテーマを決めて、その後部会に分かれて深く突っ込んだ審議ができるようになったので、それは進め方として見直すことができると思います。

委員　私は、安心・安全部会に参加しましたけれども、これからの周南市をつくっていく人材を育てていくというのは大事なことなので、是非続けていただきたいと思います。それには、企業がもう少し子育てに対する意識を具体的な形で示していただけると、実際に働いている父親母親世代にとっては子育てしやすいと思います。行政サービスはたくさんあって良いのですが、根本的に親が育てていく環境を見直していくということになれば、企業の理解と考え方が変わることが必要です。今、環境問題については色々な企業が取り組まれていても、子育てについてはあまり話が聞こえてこないのも、とても残念です。

もう1つは、なかなか子どもが大きくなってから規制をかけるのは難しいと思いますが、色々なことで子どもが大人の社会にあまりにも近付きすぎているということに対して、家庭だけの力では難しいということです。例えば、携帯電話にしても、大人と同じような機能を持ったものを小学生が使っているということは、本当に怖いことだと思います。それについて、啓蒙からでも良いのですが、子どもの方は大人よりも一歩も二歩も進んでおりますので、こういう危険性があるとかこういう状況にあるということをもっと発信できればいいと思います。

委員　私は平成17年から参加させていただいておりますが、地域審議会というものがまだ良く理解できておりません。今までのアンケートで私も提案をしましたが、資料として配られても、そのことに関して、市から何も示されないのも、審議会であるならやっぱり回答が欲しいと思います。

委員　私は新市建設計画の実現までどういう経過をたどったのかが、地域審議会が一番重要なところだと思っておりますが、さっぱり進んでいないような気がして、説明責任というのが必要なのではないかと強く思っています。

委員　地域審議会の性格がよく飲み込めていないというのが私の実感です。市のような審議会が同じようなことをやっているような気がして、この地域審議会に何を求められているのか、何を審議しなくてはいけないのかというのがよくわかりません。この性格をもう少しお互いの共通事項として一本化して受け止めた中で審議しなくてはいけないと思います。安全の問題とか駅前の問題でも（審議会が）3つも4つもある。人が変われば知恵も変わるわけですから良いのですが、案外似たり寄ったりなところがあるのではないのでしょうか。経済的なことを言えば、審議会を止めるのも一番の経費削減になるのではないかと考えてならない。

委員　私は、地域審議会に4年間出ました。冒頭から、地域審議会は何をすることを明確にしないとどうしても話が前に進まないと思っていました。地域審議会の原点は、合併による地域格差をなくすために、新市建設計画の進捗や行政のやり方についてチェックして、地域としてその問題を提起あるいは意見具申をしようということです。それは非常に大きな責任があるし、その意見具申は大きな意味を持つと私は認識しています。しかし、それがどうも機能していない。事務局ともやりとりをしました。他の地域の審議会がどういう進め方をしているのかということも他の地域の委員とお話していると、言葉は悪いが地域エゴになってしまっている。「私達のところに何をするのか、私達のところの計画をどうしてもらおうか。」というような議論をしている。それでは、今から地域審議会をどう進めていくのかとい

う交通整理をしていただかないといけないというのが、私の感想です。

委員 僕も4年間、審議会に関わっています。皆さんと比べて(若いために)知恵も経験もない僕達のような人間がいずれこの街に残っていかないといけない時代が来るのではないかと考えてやってきました。今、2歳くらいの子どもがおりますが、10年後になれば子育ての本当の難しさを味わう歳になるのかもしれない。20年後になれば今度は孫を持つような時代になるのかもしれない。30年後になれば、僕らがこの街を中心になって動かしていかないといけないのかもしれない。40年後、50年後になれば、僕らが歩いてきた道や築いてきた時代を子や孫に評価されるような時代になるのかもしれない。そこから先は、僕がいるかどうかはわかりませんが、それでもこの街は残りますし、この街に我々の子や孫、その先の代というのは永遠に残り続けるのではないかと思います。短い期間で考えれば色々な問題はあるでしょうが、そういう長い目でみて、子や孫もっと下の世代の人達に何か大事なものを残していけたらなと思います。人が新しくなればまるっきり新しくなっているのか、この街が子や孫の代になったら、まるっきり違う周南市になっていいのか、というのは本当に考えさせられるところです。僕らも次のバトンを受け渡す時にはそのことを十分考えながら、進んでいきたいと思ひますし、今の皆さんから大事なバトンがあるならしっかり僕達も受けて次に向かって走っていきたくて考えています。

委員 私は、子ども会に携わっておりますが、徳山地区というのは他の3地区とは違い中心部から山間部まであり、学校にもかなりの規模格差があります。今後、他の3地区のように行政が平等に対応すれば済むような場合と、徳山地区のように6~8人という学校から450人くらいの学校までの差がある場合がありますので、そこに地域格差が出ていないかということは、注視していきたいと思ひます。

委員 私も同じように「地域審議会委員とは何なのか」という気持ちを持っています。最初に応募して委員になり、丸4年やったこととなります。このような意見が出ること自体がおかしい。地域審議会は何をするのだという目的を持っていただくと必要があります。私は、戸田地区に住んでいて、あれだけ立派な合併時のご説明がどのように具現化されていくのかということをチェックするには地域審議会委員になるのが一番いいと考えました。それで応募して幸いにして当選して地域審議会委員になりました。第1回目の会合で、「何を審議しどういう目的でこの地域審議会は運営されていくのか明確にしてください。そうでなかったら方向性を失いますよ。」ということを感じに申し上げました。法律に基づいて設置されているのですから、その法律に書いてあることを我々はきちり審議すべきであるということを感じ上げました。我々の地域格差部会では、まず第1に、安心安全に関する事項をその他必要と認める事項の中の1番重要なこととして議論させていただきました。その1つが、須々万の消防体制の問題でした。

もう1つ大事なことは、合併時に示された立派な計画をどのように実行していくのかということです。議員が変わったらあれは絵に描いた餅というのでは困ります。私は、議員の方と会った時に、地域審議会のことについて随分説明しました。議員の方は、「最近になってあなたの言うことがようやく理解できてきた。はじめに議会

では、何のために（地域審議会というものを）設置するのか。屋上屋を重ねるだけではないかというのが議会の中で大勢を占めていた。」と言うのですが、それでは困る。新市建設計画について、重大な変更をするときまたは廃止するとき、まず地域審議会に諮り議会の承認を得て、その上で知事の許可を経てはじめて変更したり廃止したりすることができるということが法律の中に明確に示されている。このことは、次の審議会の委員の方にははじめに充分納得して、審議会を進めていただきたい。「Plan Do Check Action」という言葉がありますが、どういうアクションをとったのかという報告が何もなし。まちづくり総合計画の基本構想について答申しましたが、それについても、例えば、11万人を目標としているが現在人口が減っている中でまちづくりをどのように変更していくべきなのかということすら検討されていない。数字が明確に変わってきているものについてすら、後のフォローがされていないのです。私は、そういうことが「審議会自体が無駄ではなかったのか。」というご意見になって出て来るのだと思います。

委員 私は、意見が言える場が欲しいと思って公募に応募しました。市長さんから何か出されたものを審議するのかと思っていたら、出ることがなかったので、「とりあえず・・・。」という感じでこの2年間が過ぎたという感じです。でも、私は、私自身の生き方として、ここに席をもらった委員としての自分というものを見つめながら、その中で何をすることができるのかということを中心に考えて行動しているつもりです。

私は、今日是非お願いしたいことがあります。一言で言えば本当に子どもの質が悪い。昨年と今年、夏休みに児童クラブの指導員をやり、そこで子ども達と接しました。「これが将来の周南市を担う子供か・・・x(ペケ)。」と思いました。そこで、夏休みに自分なりのプログラムを立てて子ども達に向き合い、結果も出しました。

昨年、初めて携わって遠目に見ていると、学校によって児童クラブに差があります。議会で「児童クラブの先生の質が悪すぎる。」という議員さんの発言を傍聴しましたが、先生の質が悪いのではなく、もうそうせざるを得ないようなところまで子どもの質が低下しています。

こうした2年間の経験から、私はまず児童クラブをきちっとしていただきたい。働いている方々が子どもを預けているわけです。市の職員でもご夫婦で働いていらっしゃる方がいっぱいいます。皆さん、自分の子どもを児童クラブに預けて、「こうだったらいい。」とか「こういう風にしてもらいたい。」と感ずることがあると思います。市の職員も市民です。そういう観点に立って、自分達だったらどうするかということを考えていただきたい。

私は、月曜日に市と協働して講演会を開催いたしました。6つの課と市民団体が関与して、220人の方が聞いてくださいました。聞いたから何かが変わるわけではないのです。でも、皆の意識は講演等で少しずつ変わります。それでは次の行動をどう起こしていくか、それが行政の舵取りだと私は思います。「青少年の健全育成」が私のライフワークですので、それを行政とともに1人の市民として、子の代孫の代にどういう地域の中でどういう人間が育っていくか、そのために今の私がなすべきことは何かということを考えながら、アクションを起こしております。

児童クラブは学校を離れてある意味家庭の一部を担っています。良い意味の人材が育てば彼らが良い核になりうるわけです。本当の意味でのリーダーを育てるわけです。でも、現在の児童クラブはあくまでも学童保育の域を出ていないのです。昨年から教員免許でもいいということで、私は入りましたが、もう他の地域はいっぱい変わってきています。色々なことや色々な地域を巻き込んだ活動の1つになるのが児童クラブではないかと私は思っています。

委員 子育ても地域社会も私にとって範囲が広すぎたように感じました。私はゼネコンにおり、10年位前に麹町で再開発を行って、国・県・市から補助金を4億5千万円ほどもらいました。そういう経験を生かして駅前開発について少しは意見が述べられると思っていましたが、まだそこまで議論が到達せず、消化不良です。

自治会長を5年やっておりますが、範囲が狭すぎます。周南合併の次に自治会の合併を進めないと、あれだけ曜日が違うゴミの収集日があったらわかりません。隣は火曜日、うちは水曜日、あちらは木曜日というのでは、アパートやマンションは多いですから、転入・転居した人が困ります。そういうことで、自治会の合併もお願いしたいと思えます。

審議会では提案しても答えが来ませんでした。今から駅前開発をやるのでしょけれども、あまりにもペースが遅いと思えます。色々な意見を聞いていたら、これまで4年間どうにもならないことは今後4年間も同じです。

会長 皆様から地域審議会のあり方やその他日頃活躍されている各団体での思いなどのご意見をいただきました。地域審議会そのものの方向付けが難しく、法律で決まっておりますが十分機能しなかったということで、私もまとめ役としての会長職にありましたが、不十分な点があったと思えます。ただ、ここに、安心安全な子育て対策と、地域バランスを考えたまちづくりとして出先機関等のあり方の問題、北部地区における常備消防の整備の問題、合併時の未調整項目と新市建設計画の推進の問題についてのご提言をいただきましたが、この提言を市長に真摯に受け止めていただき、これをどのように実行されるかということによって皆さんの答えが出て来ると思えます。地域審議会の重みというのは、法律で決まっているということもあり、他の審議会と違います。重みが違うわけですから、出たご意見を事務局の方で十分踏まえたうえで、これらの解決に努力していただきたいと思えます。

また、合併して旧鹿野、旧熊毛、旧新南陽、旧徳山というカラーがそのまま残るようでは駄目だと思います。一日も早くそういう形がなくなるようにしていくことが必要です。例えば、お金が無いといいながら、旧鹿野町区域の人口4,300人のところに30人の総合支所職員を配置しておいて、それぞれの支所は職員を1人ずつ削減している。そういうことを市民は全部知っています。地域バランスを考えて出先機関の整備をしながら、一体となった「周南市」という言葉になるようにしていただきたい。これは行政の責任と思えますから、そういう形で今後の市政を進めていただきたいと思えます。私も、地域の中で周南市をよくするために頑張っていきたいと思えますので、よろしく願います。皆様には長期間に渡ってご審議いただきましたが、皆様はそれぞれの団体で活躍され立場もありますので、また団体を通じて周南市の発展のためにご尽力いただけたらと思えます。

全員 《拍手》

事務局 《事務局から今後の予定について説明》

5 総合政策部長あいさつ（要約）

- 熱心なご審議ありがとうございました。頂いたご意見は地域の声としてしっかり受け止めて今後の参考にさせていただきます。
- 平成15年の第1期からの委員の方につきましては、今回は最後の地域審議会となりますけれども、今後もよろしくお願いいたします。
- まちづくり総合計画の基本構想の審議や今回の提言についての審議など、色々ご苦労いただきまして、ありがとうございました。今後も周南市の発展のために、ご活躍いただけたらと思います。
- 「まちづくり」とは、「地域の個性を生かしながら、そういう心を維持し育てていくこと」と言われています。「人が住むに値する場所＝まち」をつくろうと市も頑張っております。市民の皆様と一緒に取り組んで参りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

6 閉 会